

雜誌(第百號前後ならん)に兒童摸倣性に就ての予が拙文該雜誌に記載あり其當時予は中學と云はず小學と云はず總て教育上には多少の力を盡し兒童の爲め少年の爲め進歩改進黨を謀れり故に履歷書中には學校用として教草三拾枚寄附とか琢成小學校へ金員寄附とか協同學校へ幼稚園之記寄附と云様な辭令褒詞のあるは此精神の公表せられしものなり其後大津に師範學校が出来同校の植物教授は松本駒次郎氏(予も幾回も相往來せり)なりし予は此時植物學階梯三卷を編纂し其草稿を故田中芳男先生に寄せて檢閱を請求せしが縁となり同先生より東京の勸諭を受け之が爲め遂に中學教員を辭し登京し博物局員となる是より前さ若狹多太ヶ嶽産「シヤクナギ」イワウチハ」其他に就て同先生に質問示教を受けたることもあり(該植物學階梯は後ち廢棄す)其植物園は予が退校と共に廢園に歸す噫 其人存則其政舉其人亡則其政息むとは此謂ならん 大正十二年四月 藤野寄命 記 齡七十又六

○なにかみしゝらんと藤野寄命翁

牧野 富太郎

羊齒類ノしゝらん屬即チ *Vitaria* ノ一種ニ *Y. Fudinoi* Makino. ト稱スルモノガアツテ四國九州ノ深山中生ジテ居ル之ヲなにかみしゝらんと稱スル是レハ中實獅子蘭ノ意デ其囊堆即チ子囊群ガ中脈ト葉緣トノ中間ニ位スル故ニ此様ナ名ガ附ケラレタノデアアル然ルニ松村任三博士著ノ訂改植物名彙ニながみしゝらん(*nagami-shishitan*)即チ長實獅子蘭ノ意ノ名トシテアルノハ誤リデアアル、ソシテ此なにかみしゝらんノ和名ヲ始メテ此羊齒ニ下シタ人ハ當時東京ノ博物局ノ天産部ニ在勤セラレテ居ッタ藤野寄命君其人デアッタ同君ハ明治十七年ノ初夏ノ頃ニ同局カラ植物採集ノ爲メ四國地方へ出張セラレ即チ五月二十四日ニ伊豫ノ久萬町附近ノ小田深山デ始メテ此羊齒ヲ見出採集セラレ乃デ上ノ和名ヲ下サレタノデアアル私ハ其後私ノ友人デアッタ吉永悦郷(吉永虎馬君ノ

來タ即チ同氏ハ之レヲしゝらんノ變種ト考ヘタノデアアル、此羊齒ハ其外貌頗ルくらがりしだ (Drymotaenium Miyoshianum MAKINO.) ト似テハ居ルガ全ク別種ノ品デアアル私ハ明治三十四年九月ニ發行シタ拙者『新撰日本植物圖說』第一卷第十二集デ此兩種ヲ詳說シテ置イタノデ今其書カラなかみしゝらんノ圖ヲ此ニ轉載シテ其形狀ヲ示スコトニシタ



なかみしゝらん

Vittaria Fudinoi MAKINO.

令兄) 矢野勢吉郎ノ兩君 (兩君トモ今ハ故人トナッタ) 並ニ私ガ土佐ノ山中ニ得タ此羊齒ヲ親檢シテ其新種デアアルコトヲ知ッタノデ其發見者藤野君ノ姓ヲ其種名トナシ同君ノ名譽ヲ表彰シタノデアアル私ガ始メテ其新學名ヲ公ニシタノハ明治二十五年デ其記載文ヲ發表シタノハ同三十一年デアッタ吉永悅郷君ガ其當時其標品ヲ北米合衆國ノ羊齒學者イートン氏ニ送ッタヲ同氏カラ Vittaria japonica Mro. var. sessilis EATON. ノ名ヲ報ジテ